

E-2 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査—愛媛県ゾーンの場合—

(1) 調査の概要と対象地の概況

松山東雲理工大 田中華造 大原早苗 広島女学院大 佐々木いづみ
松山東雲理工大 富土田亮子 松山東雲理工大 宮内貞子

目的 本研究は、瀬戸内海島しょ部—なかでも本四架橋計画のある今尾ルート下の六島—を対象に、今後の生活環境条件の整備や住民福祉の向上に資する目的で行っている一連の基礎調査である。地域の交通特性や日常生活圏の実態、住民の生活環境に対する評価と生活関連施設の実態を知り、また住民の意識を把握することにより、今後の発展の方向性を探るための資料にしたいと考えている。

調査は昭和49年3月より開始し、すでに大三島でのポリテストの結果を昨日本学会で、伯方島での調査結果を、今春、中四国支部会で報告したが、今回は大島の調査も完了したので、後援県ゾーンとしてまとめて報告することにする。

なお本報では、概括的に把握した対象地の特性について述べる。

方法 本研究の方法は、以下の三つに大別できる。①資料の収集とその分析、②聴取・取り込みならびに現地踏査 ③アンケート調査（配布数1930部、回収数1481部）

本報では、主に①の方法により、た。客観的に地域を把握する方法として、集落の勢力圏を求めた。これは西村の「中心集落のエリア設定」による方法を利用した。

結果 本報では自然的条件、人口流動、産業と所得などを比較検討して、三島五町の概略をとらえた。また中心集落ごとに勢力指数を算出し、勢力圏を設定した。当地域の勢力圏は、行政的な境界にとらわれず複雑に入りこんでいる。実証的な方法で調べた地域特性は、次報より詳しく報告する。今後はこれらの研究成果をもとに、きめ細かな解析と大局的な立場からの検討を続ける必要性を感じている。